

財団だより

# 多摩川

1999.9 第83号



ハタネズミ  
(ネズミ科)

体長10～12cm。草地に住み、トンネルをほって住む。



'99.7.22～23 二子新地地先の多摩川河川敷で開催された「多摩川教室」

## ■多摩川現風景■

### (39) 夏休み「多摩川教室」

いよいよ総合学習が始まるようであるが、環境問題も、大きなテーマである。

環境学習といっても、非常に、幅広いもので、どこから手をつけて良いのか、迷われる向きもあるのではとおもわれる。

夏休みはじっくりと、取組むには絶好な時季であろう。夏休みに入ると、親子が環境問題を学ぶ教室が各地で開かれる。

例えば、中野区では、「夏休み親子環境まつり」、北区では、荒川クリーンエイド・フォーラムが主催する「夏休み親子セミナー」が行われるようにいろいろところで催しがおこなわれる。

多摩川では、例年おこなわれている夏休み「多摩川教室」が今年もおこなわれた。東京都、神奈川県、川崎市、世田谷区、大田区、建設省関連などの合同主催で、中身のたいへん濃いものであった。

14のテーマのコーナーが展示されており、水質、生きもの、水環境のビデオ、水環境情報、エコマーク商品、平瀬川浄化施設、たまりパーアート、降雨体験など、一回りすると、川の環境についての基礎的な知識は十分に得られる。普通では手に入らないような貴重な資料も無償で配布されているし、展

示も、解説も行き届いている。

夏休みの自由研究もかなりの成果を上げられよう。宣伝が地味なので、知る人ぞしるで、毎年來られる常連の方々もおられるようである。今年、行きそびれた人は、是非来年は行かれることをお勧めしたい。

#### ●関連する財団の研究助成

〈学術研究〉

①住民のための多摩川環境情報の利用提供システムの研究  
1993年 生田 茂 都立大学 (No.151)

〈一般研究〉

①児童・生徒・市民のための多摩川観察ガイドの調査研究  
1989年 島村勇二 府中市立第7中学校 (No.65)

②野川における児童(親子)の水遊場・川遊び行動についての実態調査  
1996年 尾辻 義和 野川で遊ぶまちづくりの会 (No.102)

③多摩川における青少年のあそびと環境教育の研究  
一次世代の多摩川の守り手を育てる—  
1997年 千葉勝吾 東京都立田園調布高等学校 (No.107)

④多摩川中流部(本流)における子どもの川遊びと水辺行動についての実態調査  
上田大志 多摩川センター (現在 研究中)

## 多摩川散歩

### ■数馬の「とっておき」GUIDE■

檜原温泉センター数馬の湯 山崎 源重  
調査では数馬の豊かな自然と素朴なたたずまいに魅了されて訪れる人が多い。子供たちにクワガタはデパートで購入するものではなく自然の木にいるものだとすることを教えたい、という親もいた。ホタルを見たこともないと言う子供もいるという。

さて、その「ホタル」、10年間続けた「ホタル祭」だが努力の甲斐もなくホタルはよみがえらなかった。徒労に終わったのではと言う疑問の中でこの事業は終焉されていった。

福生市で多摩川に通じる秋川の、しかも南秋川の源流に数馬がある。

三頭山の麓から流れ出した滴は清流と呼ぶにふさわしく、その甘露な味わいは多くの登山者に親しまれている。

この清流にホタルが生息しないのはなぜか?諸説は様々に語られている。

現在、古老によるカワニナの養殖と時期による

観察が細々と続けられているが、何とかこの事業を再燃させて、ホタルの乱舞を見たいと願ってやまない。

どうしたことか、ホタルがこの川から消えて久しい。まさに乱舞と言うにふさわしいほど時期(昭和40年代初夏)になると川面を一面に覆いつくした。今から12年ほど前、檜原村観光協会数馬支部では貴重な観光資源としてホタルの再現に挑戦した。群馬県からホタルの成虫を買い、川に放った。ホタルの餌になるカワニナを養殖して河川に放流した。成虫を放つときには「ホタル祭」と銘打ってここには2000人を集客するほどの大きなイベントを開いた。幽玄にして妖しい光を放ちながら浮遊するホタルに多くの人は魅了された。

この地域は昭和48年奥多摩有料道路(現奥多摩周遊道路)が開通して観光地化されていった。現在、宿泊施設が12軒、観光施設として「都民の森」や「檜原温泉センター数馬の湯」を有する。

今年、数馬の魅力を発掘しようとオリジナルガイドマップ「数馬のとっておきGUIDE」を作成し利用者に好評をはくしている。また自らの実態を知るためアンケート調査等を行い、改善努力をしている。

このガイドマップは平成11年4月檜原村観光協会数馬支部が東京都の助成を受けて作成しました。

一般的な観光案内という体裁のものではなく、この地域の歴史、文化、芸能、伝統、そして豊かな自然とそこに息づく野鳥や昆虫の生態等を網羅し、ありのままの数馬を楽しんでいただこうと企画されました。

数馬の良さを多くの人に知ってもらおうと都庁を始め有楽町にある「全国ふるさと情報館」に配布してあります。また、この地域の観光施設にはどこにも置いてありますので、お立ち寄りの際は是非ご覧ください。

周辺には年間25万人の利用者が訪れる山岳公園「都民の森」や日帰りの温泉施設「檜原温泉センター数馬の湯」があります。これからの季節は11月下旬まで日光のいろは坂を彷彿とさせる三頭山(みとうさん)の紅葉が見頃になります。是非お出かけ下さい。

◇問い合わせ先 「檜原温泉センター数馬の湯」

☎ 042-598-6789



▲数馬の「とっておき」GUIDE

## 私と多摩川



レスキューロープ投げ練習(日向和田地先の多摩川'99.8.7)

多摩川リバーシップの会 平山 勇雄

私の川の思い出には、食べることがいっしょです。

まず、父の田舎での思い出です。田舎の家の前には、全長6メートルほどの川舟が繋いであります。この舟は喫水がほとんどないので、水深がほとんどない所でも、長さ5メートルはある竹竿を川底に突いて進むことができます。また、この舟には錨が付いているので、好きなところで船を浮かべることができます。

錨を投げ込んで寝転がると、入道雲の空。川の流れる音やセミの鳴く声はするのにシーンとした静けさ。迫ってくる山の緑。その川で捕れた鮎を串に刺して、囲炉裏で焼いて食べたこと。沢で捕れたうなぎの野性的な味。

つぎに、那智の大滝から高野山まで熊野古道を歩いたときのこと。名も知れぬ小さな沢の辺で張ったテントから観た、無数の蛍の幻想的な舞。その沢の水のおいしかったこと。

最後に、オーストラリアでの体験。友達と車にビールと肉とサラダを積み込んで、近くの川辺でのバーベキュー。真っ青な空の下で食べるバーベ

キューの味は今も忘れません。

少し説明が必要ですが、オーストラリアでは人の集まる場所(公園)には、必ずバーベキューの設備があります。

駐車する場所があって、お金を入れると一定の時間だけ熱せられる鉄板の付いたバーベキューの台があって、木立が日陰を作ってくれて、トイレがあって、水場があります。ですから持っていくものも少なく、本当にお手軽にバーベキューができます。皆、ゴミも持ち帰ります。

この様な美しい思い出?のせいで、わざわざ「あの汚い多摩川で遊ぶ」なんて考えもしなかったのです。ところが夢中になってしまったのです。

去年の夏、多摩川の達人 榎本正邦さんと多摩川で出会ってから変わってしまったのです。いまでは勝手に師匠とおもっています。それは、府中市郷土の森で行われている「多摩川ふれあい教室」の水中観察会です。

これは子供たちと多摩川の生き物を、観察する会です。具体的には、シュノーケルの付いた水中メガネや箱メガネを使って、水中にいる生き物を観たり、手網で水生生物や小魚を取ったりします。始めは水を怖がっている子供も魚影などを見るとすぐに夢中になって魚を追いかけはじめます。しまいには保護者まで夢中になってしまいます。

いつも、ウグイ、くちぼそ、スジえび、ざりがに、よしのぼり、ヤゴなど平均で8種類以上獲ることができます。たまに、なまずやうなぎなどがあると皆で囲んで獲ろうとしますがなかなか難しいです。それらの魚や水生生物は「多摩川水族館」としてふれあい教室の目玉となっています。

誰でも水を感じ生き物をみれば、すぐに夢中になってしまいます。子供たちの中に、多摩川で獲れた約80匹、36種類もの生き物を飼っている子供がいて、多摩川水族館以上です。

私の夢は、いつか多摩川のスジえび(居酒屋でお世話になる川えびの一種)をザル一杯とって唐揚げにして食べることです。

よみがえ

# 甦れ！多摩川

## ■ 乞田川・大田川を歩く ■

### (1) 乞田川

乞田川は多摩ニュータウンを多摩市の西から流れ、多摩市の北部が多摩川に接している地域で大栗川に合流する。

延長6.3kmの一級河川である。ほぼ、多摩ニュータウン通りに沿って流れている。と言うよりは多摩ニュータウン通りが、乞田川に沿って作られたというべきであろう。

関戸橋の南、川崎街道と多摩ニュータウン通りが交差する新大栗橋交差点先の向ノ岡大橋あたりで、乞田川は大栗川に流入する。川の水はゆっくりと流れており、橋の上から投げ込んだら面白いママチャリが川底に沈んでいる。水はわりあい澄んでおり、大きな鯉が群れをなして泳いでいる。向ノ岡橋を過ぎ、行幸橋では水道管が平行して川を渡っている。

この辺りは、川幅の半分位に草木が茂っている。

川は一直線に三面コンクリート張りの単純明快な姿である。

側道をへだててアパートの前には多摩市役所の鋼鉄製のゴミ容器があり、茶色の不燃物専用（空き缶、ガラス、瀬戸物、プラスチック）、ブルーの可燃物専用（台所ゴミ、紙くず）の二つの容器が仲良く並べてある。車橋を過ぎ、熊野神社にちなんだ熊野橋を過ぎては立派な桜の並木になっており、花見時には桜見物の人出で賑わうのであろう。

馬引沢橋あたりにはカルガモが数羽群れている。諏訪下橋あたりはマンションを含む、住宅が多く、多摩市役所も近く、多摩ニュータウンの中心の地域である。

永山橋は京王、小田急の永山駅にもちかい。

多摩市のミニバスのバス停があり、永山駅から百草団地を結ぶ路線のようである。1時間に1本のダイヤとはちょっと淋しい。

永山小橋あたりの水は澄んでいる。非常に整然とした川で、ある種、人工的な美を感じさせるところもある。

新大橋、大橋、無名の橋であるがタイル張りで、たいへん凝った欄干のある橋、釜沼橋、平戸小橋、このあたりは京王線が乞田川の右岸側に近接して走っている。

乞田貝取ふれあい広場を右に見ながら平戸橋につく。

川への石段、岸辺などいくつかの川へ近づく工夫がなされている場所がある。

であい橋という、しゃれた橋がある。名前だけでなく、タイルの敷石、足元を照らす灯り、欄干などよく考えられている。久保谷橋、上之根小橋、上之根橋、だんだんと流れが細くなっていく。落合橋、長久保橋、山王橋は京王、小田急多摩センターの駅の北側に位置している。稲荷橋をすぎて程なく、乞田川はトンネルに入り、暗渠となる。トンネルの手前に東京都のイチョウマークの上流端の標識が立てられている。

### (2) 大田川

大田川は八王子市の南、多摩ニュータウンを流れている。大栗川を大栗川橋より西に300mほど上流に遡った地点で流入している。

延長1.7kmの一級河川である。京王相模原線が大田川に沿って走っている。

合流地点あたりは水が淀んだワンド状の流れが見られる、水もちょっと濁っている。

水の流れは緩慢であり、水面にも泡が見られる。両岸はマンションが多く、住宅地である。左岸の側道は由木緑道

であり、公園としてたいへんよく整備されている。

川橋を過ぎる。セグロセキレイが数羽飛びまわっている。川にはゴミが散在している。板橋のあたりは用水路のような感じである。側道には、しだれ柳、こぶし、などが植えてあり、むくげの白い花が盛りである。松木えのき公園があり、素朴な地藏堂と道祖神がまつてある。由木緑道の区切りには、意味は不明だが、「おかんだう橋」という珍しい名前の橋がある。このへんの大田川の水も白茶色に濁っている。

大田橋の上から上流をみると、大田川がトンネルから流れている。トンネルの入口の左岸に上流端の標識が立っている。右斜め上をみると東京都立大学の三角屋根が丘の上に見える。

乞田川も、大田川も上流端から先は共通して、暗渠となつて消えていっている。

都市開発の中の川の置かれている状況が見えて、印象的であった。

かわ せみ  
翡翠

### 【訂正のおことわり】

財団日より「多摩川」第71号(1996・9)

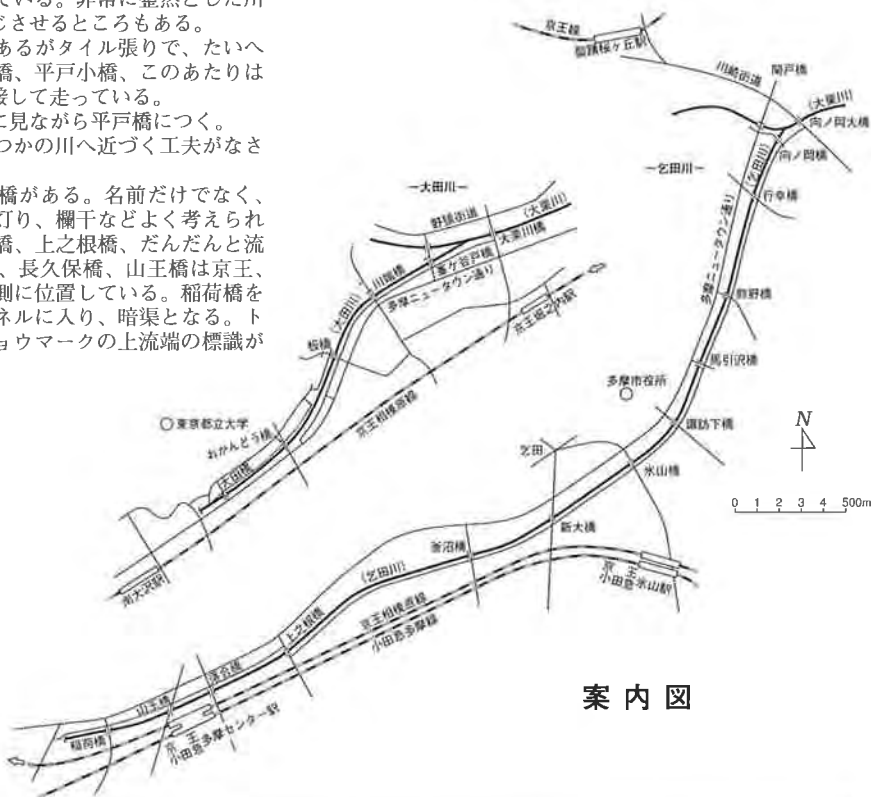
一甦れ！多摩川 ■川口川を歩く■

の次の記述を訂正させていただきます。

【訂正前】川口川は延長14.09kmの一級河川である。水源は五日市町の南端、刈奇山である。

【訂正後】川口川は延長14.09kmの一級河川である。水源は今熊山の南面・八王子市上川町、通称持籠入(もちごいり)にある。

なお、間違えましたことをお詫び申し上げますとともに、ご指摘いただきました「川口の自然を守る会」の五味 元様に心から感謝申し上げます。



案内図

## 財団からのお知らせ

### ▶▶▶ 寄贈文献の紹介 ◀◀◀

#### ● 「武州柚保の研究」

著者 安藤精一

1998年 奥多摩考古・歴史研究所

多摩川上流域奥多摩を中核とした武州柚保（そまのほ）の古代、中世の歴史を出土遺物、史料に基づき豊富な写真を用いて実証的に検証している。

付表で「柚保三田領寺院宗派と太子像一覧」として108の社寺を紹介し、また、「水没前における小河内村四大字の路傍」等も収録している。

#### ● 「福生市史普及版・福生歴史物語」

編集・発行 福生市教育委員会 1999年

本書は「福生市史上・下巻」（1994年発行）のダイジェスト版として発行され、第1章石器を使った人びと〔人類の誕生〕から第45章太平洋戦争後の行政の推移までの章立てで、最終章では地球温暖化もテーマに取り入れ、福生市の歴史にとどまらず、中学・高校の日本史の副読本として活用できる。巻末には歴史年表、参考文献、索引が収録されている。

#### ● 「二ヶ領用水400年—よみがえる水と緑—」

編集・発行 神奈川新聞社 1999年

1597年小泉次大夫が二ヶ領用水の開削工事に着手して1997年で400年にあたり、神奈川新聞川崎版に1997年1月から1998年12月まで連載したものをまとめたものである。

二ヶ領用水の史的変遷を21名の執筆者が担当している。郷土の歴史を学ぶのに最適であり、本書を持って遺跡や現存している「円筒分水」や復元された次大夫堀公園、六郷用水公園等を見学できれば二ヶ領用水の偉大さが実感できよう。

#### ● 「川の歳時記」

著者 岡村直樹 1999年 (株)北斗出版

全国の一級水系109を踏破した著者が各河川の民俗文化、川の景観、各河川の特徴ある生物生態等を1月から12月に分けて四季折々を綴った随筆集である。一例を上げれば、1月上北川のヨシ刈り、2月阿寒川の鶴の舞、3月大八賀川の白線流し、4月河骨川の春の小川、5月荻窪用水のめだかの学校、6月一の坂川のホタル、7月天野川の天の川、8月庄川の河童とキュウリ、9月高麗川の彼岸花、10月肱川の竹林、11月多摩川のカワラノギク、12月岩戸川の天の岩戸等。

#### ● 「水質調査ガイドブック」

著者 半谷高久・高井 雄・小倉紀雄

1999年 丸善(株)

本書は雨水・河川水・地下水に分けてその特色に応じて水質調査の立案から調査結果のまとめまでを一貫して平易に説明している。

調査項目は気温、水温、濁度、透明度、電気伝導度、PH、DO、COD、BOD、リン、窒素、各種イオン、微量金属、その他と多岐に亘り各々解説し、測定・分析方法は機器を用いるもの、生物を利用するもの、パックテスト等の簡易測定を用いるもの等を解説し、巻末には各種水質基準を収録している。

#### ● 「調べる・身近な環境—だれでもできる水、大気、土、生物の調べ方」

著者 小倉紀雄・梶井公美子・藤森眞理子・山田和人 1999年 (株)講談社

「水」編では身近な川で水辺のようすや水質の測定法、生物の調査法を、「大気」編では気温・降水量や大気汚染の調査法を、「土」編では地形図の読み方や土壌の性質の調査法を、「生物」編では食物連鎖の概念を各々説明し、それらを総合的にワークシートに記入できるよう工夫されている。各調査項目において、ご自身で調べ、まとめ、考えるという一貫した、学習が身につくよう編集されている。

## 首都圏における多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究、募集

財団法人とうきゅう環境浄化財団（会長 横田二郎）は、昭和50年度より多摩川およびその流域の環境浄化を促進するために必要な研究を毎年公募してきました。既に375件の研究に助成金を交付し、296件の研究成果が完成しています。

平成12年度も従来と同様、意欲的な研究を募集いたします。

### 記

#### 1. 研究対象者

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

#### 2. 研究対象テーマ

- ① 産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- ② 排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- ③ 多摩川およびその流域における水の利用に関する調査、試験研究
- ④ 多摩川をめぐる自然環境の保全、回復に関する調査、試験研究

3. 応募方法 当財団所定の申請用紙をご請求され、学術研究・一般研究いずれかを選択して、ご申請下さい。

4. 助成の決定 平成12年3月の当財団選考委員会にて選考のうえ、理事会で決定。

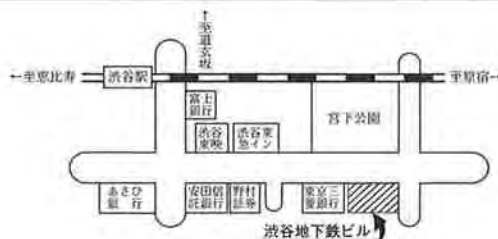
#### 5. 研究の種別

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の性格	環境問題改善のための調査研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。	環境問題改善のための調査研究で、一般の市民が、特別の学識経験を必要とせず取り組めるもの。
	(財団の過去の事例を参照)	
1件当たりの助成金総額の上限額	600万円	300万円
単年度の助成金上限額	300万円	150万円
研究期間	最長3ヶ年	最長3ヶ年
助成対象費目	(1) 器具备品費 研究に必要な機器（装置）、器具、備品等。研究機関（大学等）に所属される場合は、原則対象外。 (2) 消耗品費 調査研究に用いる各種材料、部品、薬品等。 (3) 旅費 調査研究のための交通費、宿泊費等。 (4) 謝金 調査研究のために臨時に雇った人の謝金等。 (5) その他 機器・備品等の借料、通信費、会議費、その他。	

#### 6. 公募締切日 平成12年1月17日

※応募についての詳細は、下記の財団事務局にお問い合わせ下さい。

- 発行日 平成11年9月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団  
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14  
(渋谷地下鉄ビル内)  
TEL (03) 3400-9142  
FAX (03) 3400-9141



\*印刷所 雄文社 〒336-0001 浦和市常盤9-11-1 TEL (048) 831-8125